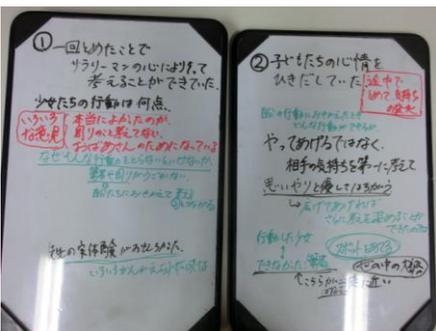


主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習過程の工夫 ～見方・考え方を働かせた授業づくりを通して～

四万十市立中村中学校
校内研修だより
NO. 5
2021.11.30

今回の道徳授業研究会ではどのような学びがありましたか。今年度は、内容項目を「思いやり・感謝」に統一し、各学年で教材研究等を何度も重ねて授業に臨んでいただきました。各学年がとても良い雰囲気の中、生徒からたくさんの意見を引き出しながらねらいの達成に向けた授業がされていました。

「授業とグループ協議後の振り返りより」



◇授業を通してこれからの自分に活かせること◇

- ・自分事で考えるために、どんな広め方や深め方があるかの具体策を知ることができた。
- ・一人一人の考えを評価することが生徒の喜びにもつながると思うので、難しいことではあるが実践したい。
- ・内容理解にならないように、自分事として考えさせるための発問を工夫していきたい。
- ・子供を知っている担任として、生徒の発言を上手く引き出していたところから、改めて生徒理解の大切さを実感した。
- ・授業の初めに「〇〇について考えます」とその時間にどんなことについて考えを深めていくかを提示していたことから、何をベースに考えを深めようとしていくかを最初に提示することも一つの方法だと思った。
- ・内容項目や題材に対する深い理解を事前にしておくこと。
- ・道徳の時間にどのような力を付けたいかを明確にしておくことの重要性を感じた。
- ・ねらいをどこに絞るか、考えを広げる工夫、板書の工夫、思考の可視化、構造化
- ・生徒が発表した意見から他の生徒の考えにつなげていくこと。意見の交通整理をしっかり行い、ねらいに迫っていきたい。

◇指導主事の先生より◇

～道徳性とは～

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる！

- ・道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳性を養う。

【道徳科における学習過程とは？】

- ・導入、展開、終末の中で「自己を見つめる」場面、「広い視野から多面的・多角的に考える」場面を適切に設定していく。

【自己を見つめるための思考スキル】

- ・「今までの自分は？」「自分だったら？」「これからの自分は？」等

【広い視野から多面的・多角的に考える】

- ・「同じところ、違うところは？」「どうして違うのか？」「比べて気づいたことは？」等

問い返しや発問の工夫を大切にしてい

～道徳主任より授業研究会を振り返って～

道徳的価値について多面的・多角的に捉えるためには、「本当の〇〇とは何なのか？」と価値について俯瞰的に捉えてみたり、「なぜ〇〇は大切なんだろう？」と価値を支える根拠を捉えてみたりすることが、大切だと考えた。また、題材について多面的・多角的に捉えるためには、主人公の心情ばかりを追うのではなく、様々な人物の心情を考える中で、道徳的価値に迫ったり、時間を経る中で、登場人物の心情がどのように変化しているかということや、その理由などを捉えたりすることが必要だと考えた。道徳的価値についても、その大切さや「自分もそうしよう」という考えを持たせるだけでなく、「それが大切だと分かっている、そうはできない」という人の弱さにも目を向けさせることも、中学校段階では必要な視点だと感じた。

人間としての生き方について考えを深めていく